

本日ここに、ご遺族、並びにご来賓の皆様のご参列を得て、東日本大震災多賀城市追悼式」を執り行うにあたり、犠牲となられたお一人おひとりの御霊に慎んで哀悼の誠を捧げます。

多くの尊い命、愛する家族との思い出、住み慣れた家や平穏な日々を暮らしたなど、私たちが大切に培ってきたものが突如として奪い去られた東日本大震災から、十年の歳月が経過いたしました。

最愛のご家族を亡くされたご遺族の皆様方のまだ癒えることのない深い悲しみに想いをいたすとき、万感、胸にこみ上げ、涙なきを得ません。

犠牲となられた方々の御霊が永久に安らかならんこと、また、ご遺族の皆様様の平安を心からお祈り申し上げます。

本市はこの十年間、幾多の苦難を経ながらも、何としても早期復興を成し遂げるという気概をもって、市民の皆様、事業者の皆様と手を携え、そして心を合わせて、復旧・復興に取り組みでまいりました。

その間、全国の皆様からいただいた多大なるご支援と芳情は、私たち多賀城市民の歩みを支える心強い励ましとなりました。

また、貴重な人材を派遣して下さっている全国の自治体のご支援と、派遣職員の皆様の懸命の取り組みにより、今日では震災の爪痕を確認することが難しいほど、復興することができました。

人と人との繋がりがどれほど尊く大切なものか、それは助け合い励ましあいながら、一歩ずつ歩みを進めてきた私たちが、その道のりの中で「一番の宝」だと思っております。

一方で、震災から十年目の節目と言われるものの、被災された皆様にとっでは十年という区切りで括れるものではありません。心の復興はまだ途上であると考えております。

今後も、被災された皆様に寄り添い、心の復興を何より大切にし、復興事業の完遂、そして創造的復興の次のステージへ向けて、引き続き、全身全霊を傾けてまいります。

さらに、悠久の歴史に培われてきた多賀城市が震災を乗り越え、創造的で活力ある地域社会を涵養し、新たな未来へ踏み出すために、全力を尽くして

まいりますので、なお一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

また、被災地に位む私たちにとって、災害の記憶や経験を決して風化させず、広く全国や世界、そして次世代に伝え続けて行くことは、私たちの責務」であると考えております。

平安時代の貞観地震、そして先の東日本大震災を経験した本市だからこそ、古の先人と私たち自身の経験、教訓を風化させることなく、未来へと継承することができると信じております。

私たちは減災対策をより強固なものとした、災害に強いまちをつくり、後世へ引き継いでいかなければなりません。

平成二十五年十一月に行った減災都市宣言において掲げた「減災都市 多賀城」は、震災復興計画の目指す多賀城の姿であり、今後のまちづくりの礎となる私たちの思いです。

災害に備え、災害被害を極力減じ、迅速に復旧・復興する「減災都市 多賀城」、その実現を目指してまいります。

本日の追悼式にあたり、私は尊い犠牲を片時も忘れることなく、市民の皆様と一丸となって、創造的復興を必ずや成し遂げるとともに、更なる市勢発展を目指して全力を尽くすことを、ここに改めて固くお誓い申し上げます。

結びに、犠牲となられました方々のご冥福とご遺族の皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます、式辞といたします。

令和三年三月十一日

多賀城市長 深谷 晃祐